

## 現代のイスラム金融批判と利子概念

早稲田大学 北村歳治

近年のイスラム金融の動きは目覚ましい。イスラム金融資本市場の規模は、イスラム教徒自身によるアイデンティティの追求を背景に、オイル・マネーの急増等にあおられ、既存の通常(conventional)の金融市場を上回るペースで伸びていくと見られている。しかし、同時に、今日的な金融資本市場の観点からは、さまざまな問題を抱えている。

今回のプレゼンテーションでは、前半では今日の視点から見たイスラム金融の主要な5つの問題を批判的に取り上げる。

それは、(1)1990年代後半から急速に拡大したイスラム債(スーク)を中心とする金融資本市場取引の特徴と実態、(2)1970年代以降、着実に進展しているイスラム金融のリテール分野の特徴と実態、(3)イスラム金融における不透明性、(4)シャリアの解釈にちなむ学派・地域間の相異とコンバージェンスの問題、及び(5)イスラム金融を取り巻くビジネス環境の問題、である。

後半では、上記の指摘のうち、(1)及び(2)に直接に係り、(3)~(5)の間接的に係る利子禁止論に焦点を絞り、(1)イスラム金融における利子禁止論を歴史的な観点からレビューし、(2)ユダヤ・キリスト教等の他の利子禁止の論議との比較を行い、実態として利子が容認されていった過程を論じるとともに、さらに、(3)近代における利子概念の進展を踏まえて、取り残されたイスラム金融の利子禁止論を批判的に論じ、そこからの脱却の可能性を探ることとしたい。